

平成23年10月26日公表

平成23年産水稲の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在） （大分県）

10a 当たり予想収量は499kg（作況指数99）の見込み
作付面積（子実用）は900ha減少

【調査結果の概要】

1 大分県における平成23年産水稲の作付面積（子実用）は2万3,500ha（前年産対比96%）で前年産に比べて900ha減少しました。

なお、主食用作付見込面積は、2万3,400haが見込まれます。

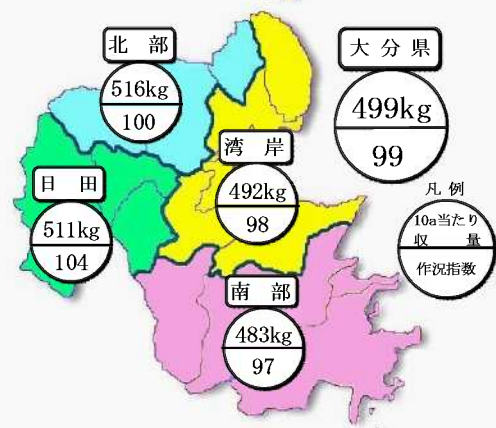
2 10月15日現在における水稲の作柄は、もみ数が多いが多かったものの、台風第15号の影響や日照不足、いもち病の発生で登熟（実入り）が不良となり、10a 当たり予想収量は499kg（作況指数99）が見込まれます。

地帯別には、北部が516kg（同100）、湾岸が492kg（同98）、南部が483kg（同97）、日田が511kg（同104）となっています。

3 この結果、予想収穫量（子実用）は11万7,300tが見込まれます。

また、主食用作付見込面積に10a 当たり予想収量に乗じた予想収穫量（主食用）は11万6,800tが見込まれます。

図 水稲の作柄表示地帯別
10a 当たり予想収穫量及び作況指数
（10月15日現在）



区分	作柄表示地帯に包括される市町村
北部	中津市、豊後高田市、宇佐市
湾岸	大分市、別府市、杵築市、由布市、国東市、姫島村、日出町
南部	佐伯市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市
日田	日田市、九重町、玖珠町

- 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積です。
- 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積（見込み）です。
- 作況指数とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率です。
- この調査は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行いましたが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行いました。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

この資料は九州農政局ホームページ大分地域センターの「大分の統計情報」

【 http://www.maff.go.jp/kyusyu/oita/toukei_jouhou/toukei_sokuho.html 】でご覧になれます。
この統計調査における調査目的、調査対象などの調査仕様は、【調査の仕様】P8に掲載しています。
本調査についての確定値は、「平成23年産水陸稲の収穫量」として12月上旬に公表する予定です。

【調査結果】

収穫期は、生育が遅れて推移したことから刈取り最盛期が平年や前年に比べて遅くなっています。

生育は、1㎡当たり全もみ数がやや多かったものの、9月中旬以降の日照不足といもち病の発生、台風第15号の大雨による倒伏等で登熟（実入り）が不良となったことからくず米が多くなり、10a当たり予想収量は499kg（作況指数99）が見込まれます。

地帯別には、もみ数がやや多いものの登熟がやや不良と見込まれる北部が516kg（作況指数100）、湾岸は492kg（同98）、もみ数がやや多いものの登熟が不良と見込まれる南部は483kg（同97）となっています。一方、早生品種が多く生育の早い日田は、もみ数が多く、9月上旬の好天と台風の影響も少なかったことで登熟が平年並みとなったことから511kg（同104）となっています。

病虫害は、8月から9月の曇雨天続きでいもち病が平年に比べて多く、広域で発生しています。カメムシは平年並みですが、コブノメイガ、ウンカ、紋枯病は少なくなっています。

鳥獣害は平年に比べてやや多くなっています。

表1 平成23年産水稻の作柄表示地帯別作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

区 分	作付面積 (子実用) ①			10 a 当たり 予想収量 ②	予想収穫量 (子実用) ③=①×②			参 考			
	前年産との比較				主食用 作付見込面積 ④	予想収穫量 (主食用) ⑤=④×②	10 a 当たり 平年収量 ⑥	作 況 指 数 ⑦=②/⑥			
	対差	対比	対比								
	ha	ha	%	kg	t	t	%	ha	t	kg	
大分県	23,500	△ 900	96	499	117,300	△ 3,500	97	23,400	116,800	503	99
北部	7,030	△ 370	95	516	36,300	△ 1,200	97	…	…	517	100
湾岸	6,890	△ 230	97	492	33,900	△ 1,400	96	…	…	500	98
南部	6,750	△ 180	97	483	32,600	△ 1,300	96	…	…	498	97
日田	2,800	△ 160	95	511	14,300	100	101	…	…	490	104

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積です。

2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積（見込み）です。

3 10a当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

表2 平成23年産水稻の作柄表示地帯別作柄概況、刈取期及び刈取済面積割合（10月15日現在）

区 分	平 年 比 較		刈 取 期			刈取済面積割合	
	全もみ数 の多少	登熟の 良 否	始 期	最盛期	終 期	%	対平年差 ポイント
			月 日	月 日	月 日		
大分県	やや多い	不 良	9. 20	…	…	47	△ 8
北部	やや多い	やや不良	9. 18	…	…	45	1
湾岸	やや多い	やや不良	9. 16	…	…	47	△ 8
南部	やや多い	不 良	9. 25	…	…	40	△ 17
日田	多 い	平年並み	9. 15	10. 5	…	70	△ 11

○ 刈取期の「始期」は刈取済面積割合が5%、「最盛期」は同50%、「終期」は同95%に達した期日です。

○ 「…」は10月15日現在において、その期日に達していないことを示します。

○ 刈取済面積割合の対平年差欄の「△」は平年より少ないことを示します。

【関連するデータ】

参考 1

平成23年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況及び10a当たり収量内訳
(10月15日現在概数値)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としています（参考4参照）。
農家等が販売するために使用している選別ふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、ふるい目幅の重量割合とふるい目幅別10a当たり収量の概数値を示すと次のとおりです。

単位 { 重量割合：%
平均対差：ポイント

区分	合計	ふるい目幅					
		2.00mm以上	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
作柄表示地帯							
大分県							
重量割合	100.0	57.6	27.1	6.7	3.7	3.3	1.6
平均対差		△ 0.3	0.4	△ 0.1	△ 0.5	0.3	0.2
北部							
重量割合	100.0	60.4	25.6	6.3	3.1	2.9	1.7
平均対差		0.4	0.4	0.2	△ 1.7	0.4	0.3
湾岸							
重量割合	100.0	49.5	31.4	8.8	4.3	4.3	1.7
平均対差		1.6	△ 0.2	△ 0.4	△ 1.1	0.1	0.0
南部							
重量割合	100.0	56.0	27.9	6.5	4.5	3.3	1.8
平均対差		△ 3.3	1.2	0.2	0.9	0.5	0.5
日田							
重量割合	100.0	69.0	21.4	4.5	2.1	2.2	0.8
平均対差		0.3	0.4	△ 0.5	△ 0.3	0.2	△ 0.1

単位：kg

区分	10a当たり 収量 (1.7mm基準)	選別ふるい目幅別10a当たり収量					
		2.00mm 選別	1.90mm 選別	1.85mm 選別	1.80mm 選別	1.75mm 選別	1.70mm 選別
作柄表示地帯							
大分県	499	287	423	456	475	491	499
北部	516	312	444	476	492	507	516
湾岸	492	244	398	441	462	484	492
南部	483	270	405	437	458	474	483
日田	511	353	462	485	496	507	511

- 注：1 平均対差に用いた平均値は、直近5ヶ年の重量割合の平均値です。
2 選別ふるい目幅別10a当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a当たり収量のことです。
3 未熟粒・被害粒の混入が多く農産物規格三等の品位に達しない場合は再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。

参考2

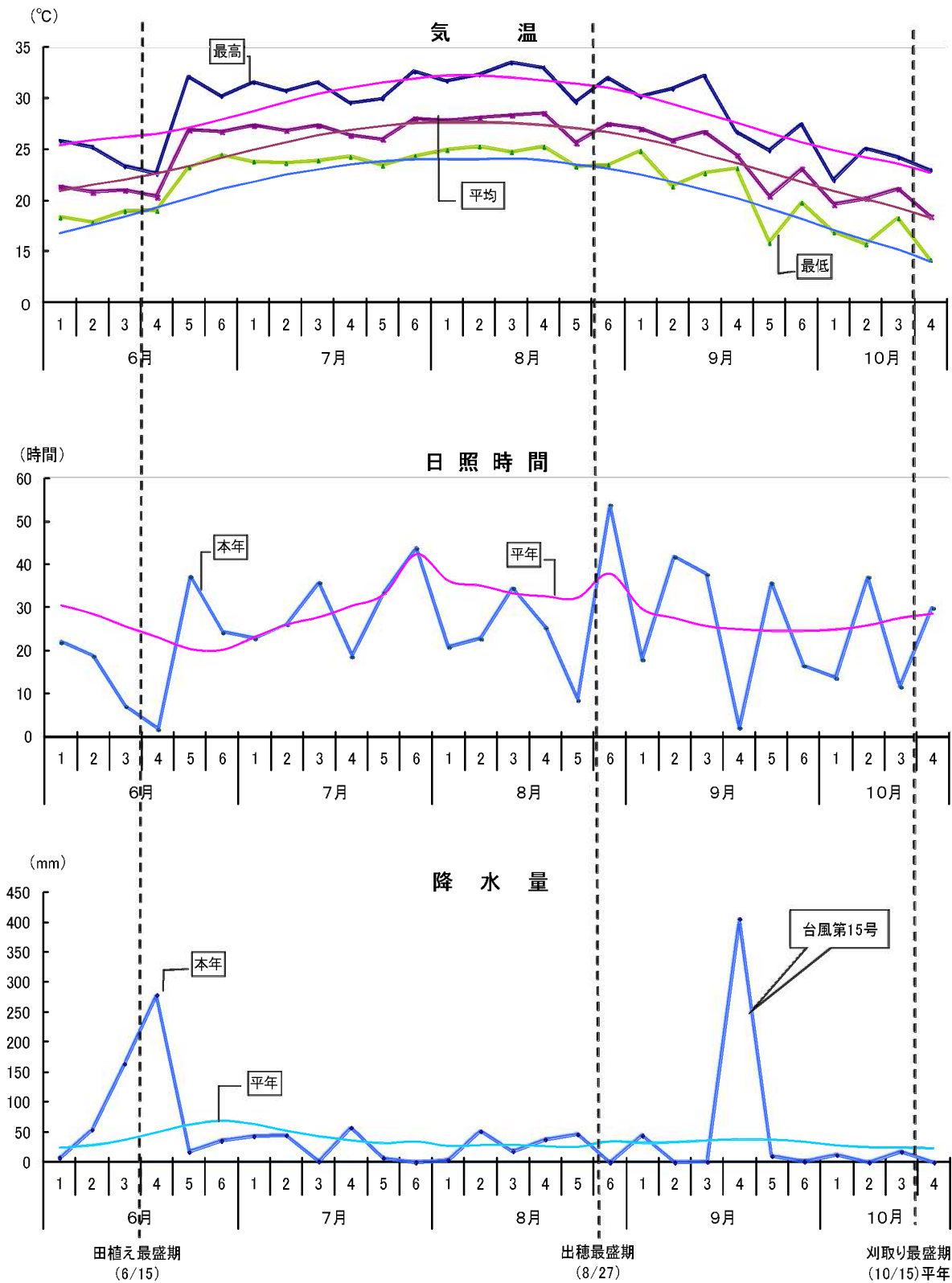
水稻の年次別推移（大分県）

年産	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収穫量 (子実用)	作況 指数	10a当たり 平年収量	参考		主な要因
						主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	
	ha	kg	t		kg	ha	t	
昭. 54	40,000	481	192,400	108	446	…	…	
55	38,700	357	138,200	79	452	…	…	異常低温、長雨
56	37,100	480	178,100	106	452	…	…	
57	37,000	421	155,800	92	458	…	…	日照不足
58	37,000	455	168,400	99	458	…	…	高温障害
59	37,300	490	182,800	107	458	…	…	
60	37,600	484	182,000	105	462	…	…	
61	37,000	482	178,300	103	466	…	…	
62	34,200	416	142,300	89	470	…	…	風水害、日照不足
63	33,400	468	156,300	100	470	…	…	風水害、日照不足
平. 元	33,200	487	161,700	104	470	…	…	
2	32,700	461	150,700	98	472	…	…	水害、台風、高夜温
3	32,000	392	125,400	83	474	…	…	台風、天候不順
4	33,000	493	162,700	104	474	…	…	
5	33,800	367	124,000	77	474	…	…	冷夏長雨、台風
6	34,700	590	204,700	124	474	…	…	高温多照、少雨、干害
7	33,300	519	172,800	109	474	…	…	高温多照、少雨
8	30,800	492	151,500	104	474	…	…	
9	30,500	479	146,100	100	478	…	…	
10	28,200	499	140,700	104	478	…	…	
11	27,800	387	107,600	80	485	…	…	台風、日照不足
12	27,500	516	141,900	105	490	…	…	
13	26,800	512	137,200	104	490	…	…	
14	26,400	513	135,400	103	496	…	…	
15	26,100	485	126,600	97	498	…	…	長雨、日照不足
16	26,200	432	113,200	86	501	…	…	台風16, 18, 21, 23号、日照不足
17	26,200	459	120,300	91	503	…	…	台風14号、高温障害(乳白)
18	26,200	395	103,500	79	503	…	…	日照不足、台風13号、潮風害
19	25,900	493	127,700	98	503	…	…	ウンカ、紋枯病
20	24,800	519	128,700	103	503	24,800	128,700	高温多照、少雨
21	24,800	502	124,500	100	503	24,800	124,500	
22	24,400	495	120,800	98	503	24,300	120,300	高温、整粒不足、形質低下
23	23,500	499	117,300	99	503	23,400	116,800	

注：1 「…」は事実不詳又は調査を欠くものです。
 2 平成23年産は10月15日現在の見込みです。

参考3

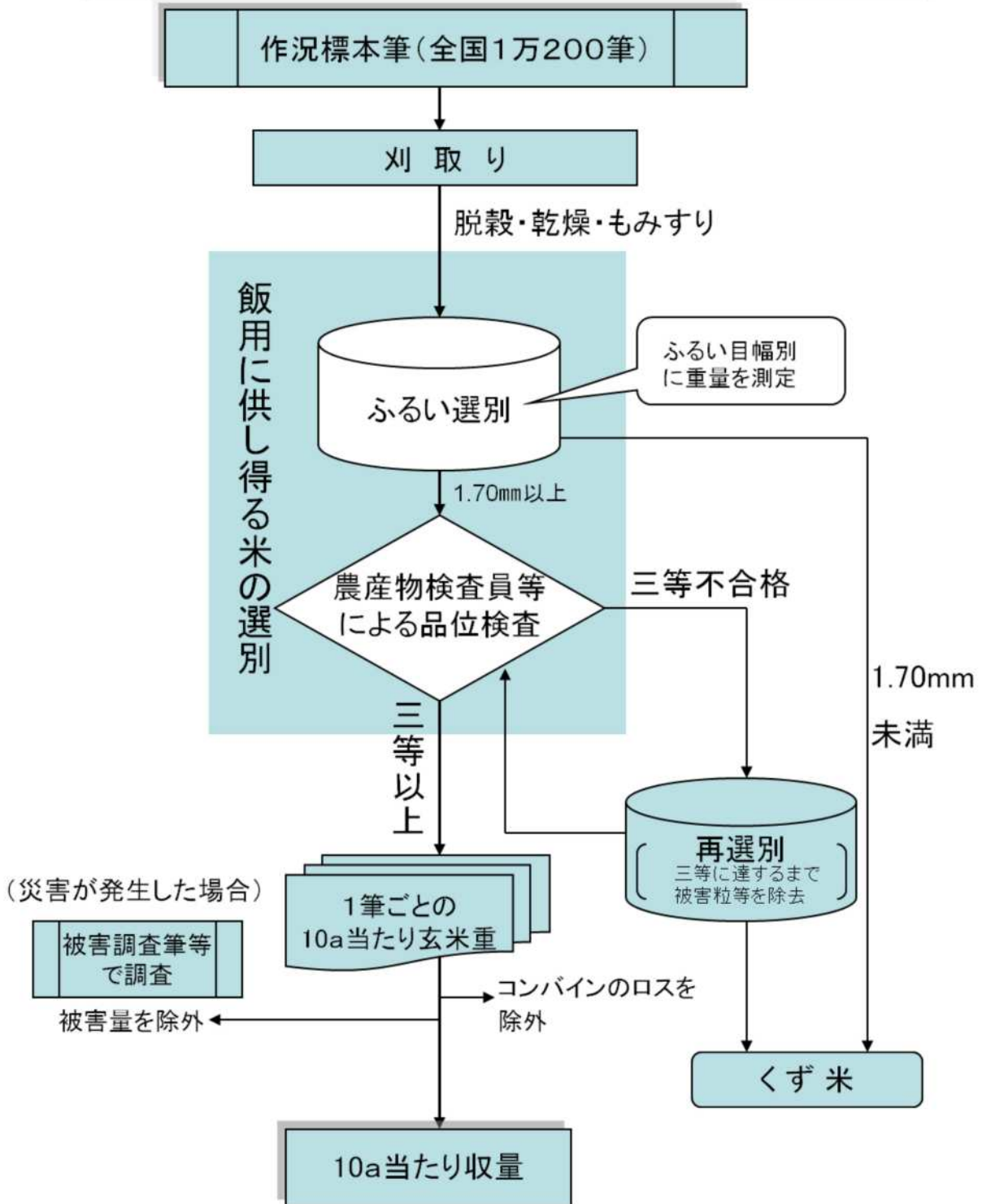
平成23年気象グラフ平年比較（大分市）



資料：大分地方気象台「アメダスデータ」

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（参考5参照）ごとに一定面積の稲を刈り取り、農産物規格三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測しています（下図参照）。



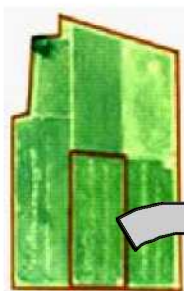
作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆(1枚のほ場を^{ふで}筆と呼びます。)は、都道府県ごとの水稻の10a当たり収量が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように各地で選定(全国で約1万200筆)しています。

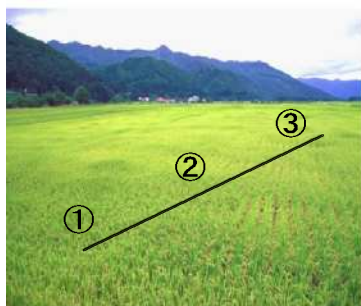
都道府県内の全耕地 (母集団)



標本単位区 (約 2 ha)



作況標本筆 (全国で約 1万200筆)



① 都道府県ごとの耕地を、約2haの区画に区切った単位区の集まり(調査母集団)として整理し、その中の水田を含むものから、無作為抽出法(人間の恣意を排したくじ引きの様な選び方)により「標本単位区」を選んでいきます。

② 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」として選定します。

③ 各作況標本筆の対角線上の3か所を実測調査箇所として、サンプル採取(坪刈り)を行っています。

【調査の仕様】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲作付面積調査及び水稲予想収穫量調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況・予想収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査の対象

大分県

3 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：865単位区 巡回・見積り：18市町村

(2) 予想収穫量調査

作況標本筆：185筆 作況基準筆：12筆 巡回・見積り：18市町村

4 調査事項

水稲の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況。

5 調査期間

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 予想収穫量調査：10月15日現在

6 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行いました。

(2) 予想収穫量調査

調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行いました。

7 集計方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめています。

(2) 予想収穫量調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめています。

8 用語の解説

(1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WC S用稲、わら専用稲等を含む）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。

(2) 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率です。

(3) 「10a当たり平年収量」とは、水稲の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

9 利用上の注意

本調査（10月15日現在）は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行いましたが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行いました。

したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

10 その他

本調査についての確定値は、「平成23年産水陸稲の収穫量」として12月上旬に公表する予定です。

【統計表の見方】

- 1 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがあります。

原 数		7桁以上 (100万)	6桁 (10万)	5桁 (万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		3桁	2桁		1桁	四捨五入 しない
例	四捨五入する前（原数）	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した後（統計数値）	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

- 2 表中の「△」は、減少したものを示します。

【関連リンク】

九州各県

九州農政局ホームページ>統計情報

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/index.html>

全国

農林水産省ホームページ>統計情報

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>



問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先：九州農政局大分地域センター

農政推進グループ 生産流通消費・審査班

TEL 097-532-6177 FAX 097-538-1820

◎農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局大分地域センター

農政推進グループ 統計企画係

TEL 097-532-6177 FAX 097-538-1820